

事業名	おおいた学びの輪推進事業 (※旧 おおいた県民アカデミア大学 開設事業)	事業の目的	多くの県民が地域づくりに主体的に参加し、学校・地域等で学習成果を活用できるように豊かで活力のある生涯学習社会（知の循環型社会）の形成に向け、県民一人一人の生涯を通じた学びを支援する。	事業期間	平成21年度 ～ 平成23年度
-----	--	-------	---	------	-----------------------

[事業の実施状況]

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)
「主催講座」の実施	県	県民	生涯学習支援リーダー養成講座(1コース) 現代学講座(3コース) ふるさと学講座(7コース) ふるさと学講座インターネット教室(3コース) 連携講座(1,193講座)	決算額			9,769	8,927
				財 源 内 訳	国庫支出金			
諸収入			1,409		1,600			
一般財源			8,360		7,327			
職員数(人)			1.10		1.10			
人件費			11,000		11,000			
「連携講座」の実施				合計			20,769	19,927

[事業の成果等]

学習した成果を学校・地域等で活かせる生涯学習支援リーダー養成講座の新設により、学校支援地域本部事業や放課後子ども教室などで活躍できる人材の育成を図ることができた。また、「連携講座」については、12市町を含む55機関との連携により1,193講座を開催し、新大分県総合教育計画目標指標の平成22年度目標「600講座」を大幅に上回った。さらに、50単位以上の単位取得者である「マナビスト」が430人となった。

[成果指標・実績]

(単位：人)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成 (23年度)	評価	備考
成果指標	「主催講座」受講者数	目標値			660	660	660	達成	目標値は「主催講座」の定員数である。
		実績値			664				
		達成率			100.6%				

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し（業務の民間委託など）を図っているか	一部図っている (拡大可能)	<ul style="list-style-type: none"> 講座を社会教育総合センターに一元化し会場使用料を半減 市町村、民間事業者や高等教育機関等との連携講座の開設 	31千円/人	$\frac{21年度決算額合計}{「主催講座」受講者数}$

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	おおいた学びの輪推進事業は、学習者を「協育」ネットワークのボランティアで活用するなど、地域づくりや学習活動の指導者育成を通じて、本県における知の循環型社会形成の一翼を担っている。この手段として学習の評価制度、人材活用制度、遠隔学習システムの活用など、効果的かつ有意義なモデル事業を市町村教委に継続的に県が提示していく必要があるため。

[総合評価]

方向性	現状維持
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 受講生の学校・地域でのボランティアとしての活用を図るため、受講生の既習者リストを作成し、市町村教育委員会等へ紹介 県下全域での事業展開を図るため、受講生のニーズを調査し、学習プログラムなどの事業計画を改善 23年度は民間業者、市町村の学習講座との役割分担を検討

事業名	県民知っ得！情報コーナー設置事業 (図書館活用夢ライブラリー事業)	事業の目的	県民が生活や仕事上の課題解決に役立つ情報を効率的に得られるよう、県の重点課題に関するテーマの資料や情報を集めた「県民知っ得！情報コーナー」を県立図書館に設置し、関係機関との連携を図りながら最新の情報を迅速に提供する。	事業期間	平成20年度 ～ 平成21年度
-----	--------------------------------------	-------	--	------	-----------------------

[事業の実施状況]

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)	
県政重点課題関係図書 の整備 県政重点課題関係雑誌 の整備 県政重点課題関係パンフレット 類等の整備 関係機関と連携した情報発信	県	県民	行政資料及び新刊実用書の整備及び提供(4,076冊) ブックリスト「景観・まちづくり」の作成・配布 速報性が高い雑誌の整備及び提供(32誌) 県政重点課題関連のパンフレット、チラシ類の整備及び提供 県政重点課題に関する企画展の実施(6回)	決算額		9,975	7,962		
				財 源 内 訳	国庫支出金				
					一般財源		9,975	7,962	
					職員数(人)		0.50	0.50	
					人件費		5,000	5,000	
					合計		14,975	12,962	

[事業の成果等]

21年度のコーナーの貸出冊数は108,430冊に上り、目標を大きく上回った。また、関係課と協力しながら「もうかる農林水産業」や「働く人を応援します」などの企画展実施や利用者向けのブックリストを作成するなど情報の発信に努めた。そのため、コーナーの認知度も高まり利用者も増加している。

[成果指標・実績]

(単位：冊)

指標の別	指標の内容	達成度	18年度	19年度	20年度	21年度	最終達成 (21年度)	評価	備考
成果指標	県民知っ得！情報コーナーの貸出冊数	目標値			84,000	93,000	93,000	達成	
		実績値			101,506	108,430	108,430		
		達成率			120.8%	116.6%	116.6%		

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている (拡大困難)	・利用者満足度調査を活用し、ニーズに基づいたコーナーの設置・運営 ・「政策企画委員会」の活用による資料・情報の効率的な収集	120円/冊	21年度決算額合計 / 県民知っ得！情報コーナーの貸出冊数

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	県内の市町村立図書館は基盤の弱い面も多いため、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(文部科学省)に基づき、個人や地域の課題解決支援の中心的役割を県立図書館が担っている。特に県政重点課題に関する情報の収集・提供については、地域の情報拠点である県立図書館の実施が必要である。

[総合評価]

方向性	終了(21年度末)
改善計画等	・県民の課題解決に資する資料・情報の収集及び提供を一体的に行うため平成22年度から県立図書館資料整備事業と統合 ・企画展の実施やブックリストの作成による情報発信の継続

事業名	青少年ふれあい交流体験推進事業	事業の目的	青少年が、「知」「徳」「体」の調和のとれた豊かな人間性をはぐくめるよう、県立青少年教育施設を活用し、様々な自然体験・生活体験等を提供する事業を実施する。	事業期間	平成14年度 ～ 平成 年度
-----	-----------------	-------	--	------	----------------------

〔事業の実施状況〕

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)		
香々地青少年の家事業	県	県民	かかじチャレンジキャンプ(対象：小5～中2)参加者121人 みんなのふれあいinかかじ (対象：児童生徒、家族、一般)参加者130人 ほか くじゅうの冬に鍛える少年のつどい (対象：少年、保護者)参加者159人 くじゅう環境調査隊(対象：小4～小6)参加者33人 学社連携体験活動プログラム開発(小5)17人 ほか	決算額	2,855	2,715	1,983	1,887		
九重青少年の家事業				財源内訳						
				国庫支出金						
				繰入金						
				一般財源	2,855	2,715	1,983	1,887		
				職員数(人)	1.60	1.60	1.60	1.60		
人件費	16,000	16,000	16,000	16,000						
合計	18,855	18,715	17,983	17,887						

〔事業の成果等〕

青少年に様々な体験活動や交流活動の場を提供することにより、自然を大切に作る心、他者への思いやりや協調性等豊かな人間性や社会性を育むことができた。また、環境問題等子どもを取り巻く現代的な課題について考える機会を提供することができた。

〔成果指標・実績〕

(単位：人)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成(年度)	評価	備考
活動指標	主催事業の参加人数	目標値	2,220	2,275	1,977	2,200		達成	
		実績値	2,376	2,735	2,242				
		達成率	107.0%	120.2%	113.4%				

〔実施方法の効率性〕

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	<ul style="list-style-type: none"> 安全登山をテーマとした事業の指導部門を(社)大分県山岳連盟に委託 地域おこし連絡協議会との事業の共催 	8千円/人	21年度決算額合計 / 主催事業の参加人数

〔県が実施する必要性〕

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	新大分県総合教育計画において青少年教育施設における体験活動の推進が位置づけられており、また、新学習指導要領においても青少年教育施設等における集団宿泊活動や自然体験活動の充実が求められている。このことから、効果的な活動プログラムが提供できること、市町村教育委員会等と連携し広域的な事業の展開が図れることから、県が引き続き実施する必要がある。

〔総合評価〕

方向性	現状維持
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> マスメディアの活用やホームページの充実による積極的な事業広報の実施 参加者アンケートによる満足度調査や事業の教育効果に係る検証の実施 学社連携体験活動プログラム開発を香々地・九重両青少年の家で実施するとともに対象校を1校から4校に拡大 デジタルプラネタリウム(香々地)や新規ソフトウェア(九重)等を活用した体験活動の充実

事業名	森林環境学習指導者養成・スキルアップ事業	事業の目的	子どもが森を知り、大切にすることを心がけ、森林環境学習を円滑に推進できるよう、指導者の養成・スキルアップ及び森林環境に関わる体験プログラム教材の開発を目的として、九重青少年の家で研修を実施する。	事業期間	平成21年度 ～ 平成22年度
-----	----------------------	-------	---	------	-----------------------

[事業の実施状況]

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)		
森林環境学習指導者養成セミナー	県	教職員 県民	森林環境学習プログラムを体験・企画し、指導者としての基本的な知識や技法を習得(1回 参加者9人) 専門家の助言を受けながら、くじゅうの自然を活用した森林環境学習の体験プログラムを作成 (4回 参加者12名)	決算額			934	1,000		
森林環境学習指導者スキルアップセミナー				財源内訳						
				国庫支出金						
				繰入金				934		1,000
				一般財源						
				職員数(人)						0.50
人件費						5,000	5,000			
合計						5,934	6,000			

[事業の成果等]

養成セミナーでは、様々な立場の受講者が集まり、森林環境学習指導者としての基礎的な知識や技能を身につけることができた。また、スキルアップセミナーにおいては、より実践的な「企画力・運営力・指導力」のスキルアップを行い、地域や学校において森林環境教育の効果的な実践ができるリーダーを育成することができた。

[成果指標・実績]

(単位：本)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成 (22年度)	評価	備考
成果指標	参加者による森林環境学習体験プログラムの作成本数	目標値			10	15	15	達成	
		実績値			13				
		達成率			130.0%				

[実施方法の効率性]

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	図っている (拡大困難)	・前年度(平成18～20森林環境指導者養成事業)までの受講者が、セミナーに参加し支援及び交流を実施	456千円/本	21年度決算額合計 / 21年度プログラム作成本数

[県が実施する必要性]

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	青少年教育施設に蓄積された効果的な指導者養成プログラムの活用等により、森林環境学習の指導者を広く全県的に養成する必要があることから、県が実施する必要がある。

[総合評価]

方向性	終了(22年度末)
改善計画等	・指導者の実践的指導力及びコミュニケーション能力向上を目的に、作成したプログラムを「親子で楽しむネイチャーサイエンスinくじゅう」で試行 ・平成21、22年度に開発した森林体験学習の体験プログラムを、プログラム事例集として教育機関等に配布

事業名	県立図書館資料整備事業	事業の目的	県立図書館が、県民の生涯にわたる多様な学習要求に応えるとともに、行政及び地域や個人の課題解決を支援する役割を果たせるように、現在及び将来の県民の共有財産となる図書資料を計画的かつ継続的に収集する。	事業期間	平成 7 年度) 平成 年度
-----	-------------	-------	--	------	-----------------------

〔事業の実施状況〕

(単位：千円)

区分	事業主体	対象	事業内容	投入指標	19年度	20年度	21年度	22(予算)		
一般図書の整備 文庫本の整備 調査相談資料の整備 障がい者用資料の整備 郷土資料の整備 児童用資料の整備 逐次刊行物(新聞・雑誌)の整備	県	県民	各分野の基本となる一般図書の整備及び貸出(6,505冊) 新刊を中心とした文庫本の整備及び貸出(500冊) 調査・研究に役立つ資料の整備及び提供(610冊) 視覚障がい者用の大活字本の整備及び貸出(110冊) 大分県関係資料の網羅的・継続的整備及び提供(508冊) 子ども室の消耗の激しい良書の買い換え及び貸出(612冊) 各分野の新聞(32紙)雑誌(490タイトル)の整備及び提供	決算額	51,315	45,604	36,486	48,121		
				財 源 内 訳	国庫支出金					
					一般財源	51,315	45,604	36,486	48,121	
				職員数(人)	5.50	4.50	4.50	4.50		
				人件費	55,000	45,000	45,000	45,000		
				合計	106,315	90,604	81,486	93,121		

〔事業の成果等〕

入館者数及び個人貸出冊数は年々増加している。特に個人貸出冊数は、都道府県立図書館の中で全国第2位となった平成20年度を上回り、21年度は過去最高の114万6千冊を記録した。「利用者満足度調査」でも、図書館のサービス全体に対する満足度は77.4%、図書館のサービスが生活や仕事で役に立っていると答えた割合は75.1%と県民に高く評価されており、県民の需要に応えた適切なサービスの向上が図られた。

〔成果指標・実績〕

(単位：冊)

指標の別	指標の内容	達成度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終達成 (年度)	評価	備考
成果指標	県民1人当たりの年間貸出冊数	目標値	0.804	0.834	0.863	0.870		達成	21年度実績＝年間個人貸出冊数(1,146,449冊) / 県の人口(1,197,220人)
		実績値	0.870	0.920	0.957				
		達成率	108.2%	110.3%	110.9%				

〔実施方法の効率性〕

検証の視点	検証結果	21年度までの主な取組状況	効率性指標	左の計算式
事業の簡素化、実施方法の見直し(業務の民間委託など)を図っているか	一部図っている(拡大可能)	<ul style="list-style-type: none"> 利用者満足度調査を活用し、利用者ニーズに基づいた資料整備 資料の受入・装備業務の民間委託 入札による図書及び雑誌納入業者の決定 	71円/冊	21年度決算額合計 / 県立図書館の年間個人貸出冊数

〔県が実施する必要性〕

検証の視点	検証結果	説明
国・市町村・民間団体との役割分担を踏まえ、県による実施が必要か	県による実施が必要	「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(文部科学省)に基づき、個人や地域の課題解決支援の中心的役割を県立図書館が担うとともに、市町村立図書館等の要求に十分に応えられる資料、県政の重点課題等に対応するための資料、多様化する県民のニーズに応えるための課題解決に役立つ資料等の整備を中心に、県立図書館が広く収集し、整備することが必要である。

〔総合評価〕

方向性	現状維持
改善計画等	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な選書が行われるように選書方法を変更し、新刊図書が迅速に利用者に提供できるように改善 予算内でより多くの資料を購入するとともに、利用者のリクエストにも応じられるよう、選書方法の見直し及び資料購入方法の変更 より多くの資料の受入・装備ができるよう、受入・装備業務の民間委託内容を単価契約から年間契約に変更